



平成 28 年 5 月 12 日

各位

会社名 IJT テクノロジーホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 原田 理志  
(コード番号 7315 東証第 2 部)  
問合せ先 上席執行役員管理本部長 甲山 博敏  
(TEL 03-5715-2681)

### 中期経営方針の策定に関するお知らせ

2013 年 10 月に当社が設立され 3 期間（約 2 年半）が経過し、グループ経営戦略の次の一手を打つ準備が整ってまいりました。

つきましては、足許の経営環境も踏まえ、より盤石な事業基盤を構築するべく今期（2017 年 3 月期）を初年度とした 5 年間を対象に「中期経営方針」を下記の通り策定しましたので、お知らせ致します。

—記—

#### 1. はじめに

- ・当社は、株式会社アイメタルテクノロジー、テーデーエフ株式会社、自動車部品工業株式会社の 3 社がそれぞれの持つ経営資源及び技術力を集中し相互補完することで 3 社の強みを統合し、迅速な海外展開や現地での一貫生産によるコスト競争力向上を通じて顧客ニーズに応え、継続的な事業の発展を実現することを目的として、2013 年 10 月、3 社経営統合による共同持ち株会社として設立されました。

まず、設立後の 3 期間（約 2 年半）における主要な活動を振り返ります。

#### 【主要な活動】

- 1) 当社機能/組織の整備
  - 管理/企画系戦略本部を設置しグループ一体経営の基礎を構築
- 2) グループ・キャッシュ・マネジメントの統合
  - 資金調達、資金運用、資金管理の一元化により資金効率が向上
- 3) 国内事業における QCD (Quality, Cost, Delivery) 競争力強化
  - 最新鋭 12800 トン鍛造プレス機の導入
  - 産業用エンジン組立ラインの刷新(4 本ラインを 1 本化)
  - 高効率鑄造電気炉の全社横展開

4) 高効率生産ラインのアセアン展開

ーインドネシア事業

ービジネス拡大に向けた新規鑄造ラインの生産立上げ

ー素材（鍛造）加工一貫生産開始

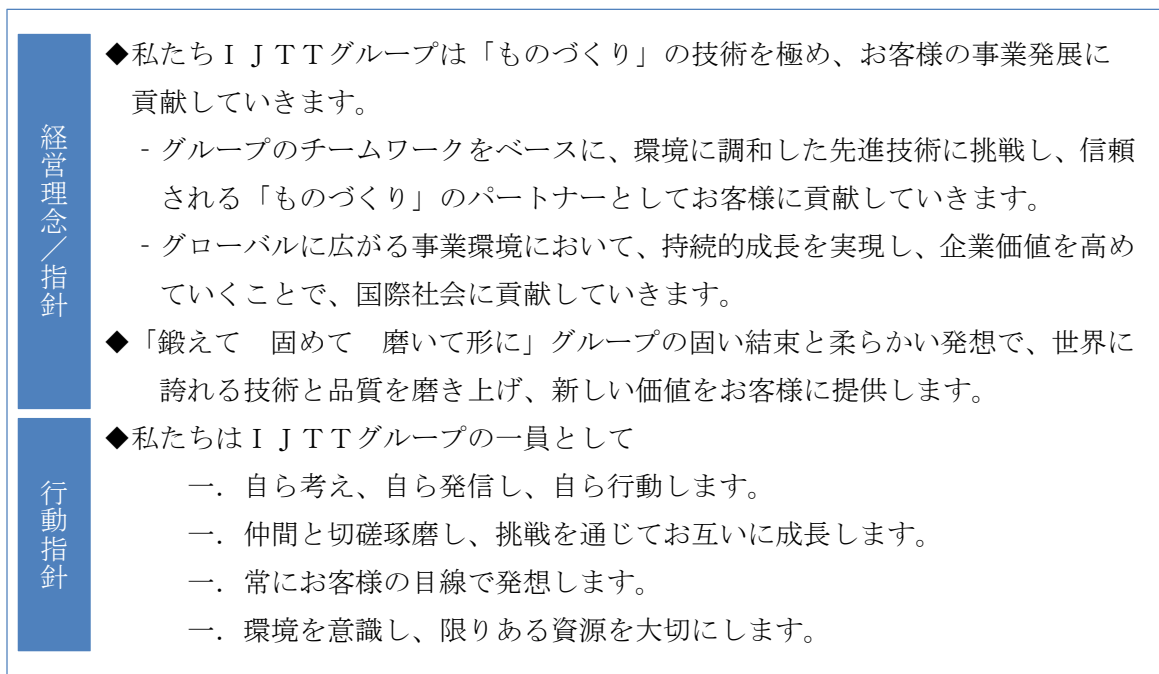
ープロペラシャフトの現地生産化

ータイ事業

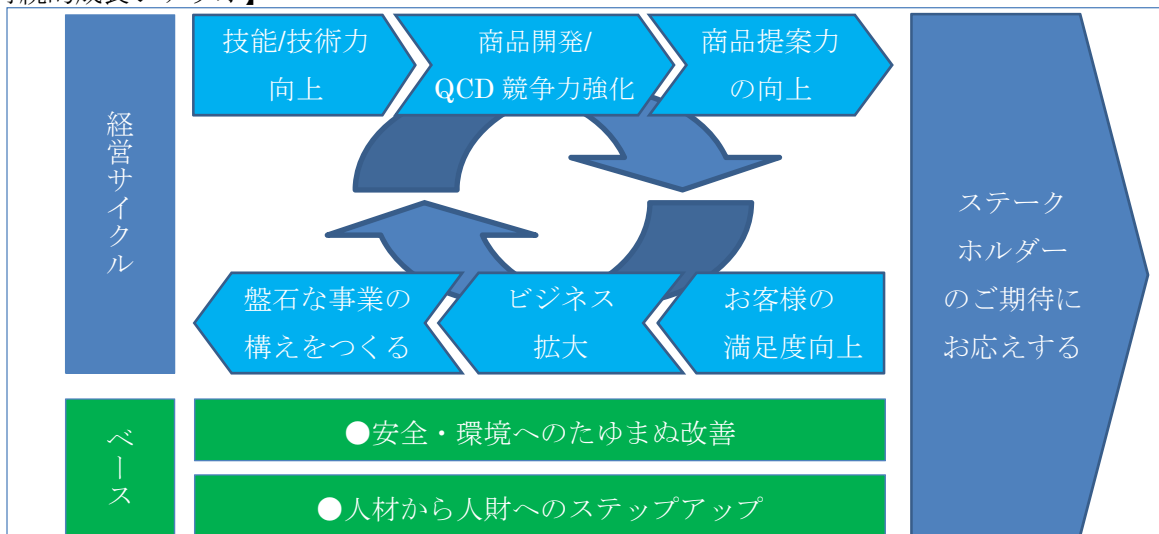
ープロペラシャフトとエンジン部品の棲み分け/工場新設による2拠点化

2. 基本的な経営方針

- ・当社グループは、経営理念を念頭に行動指針に則り、持続的成長シナリオに基づき、長期経営ビジョンの達成を目指してまいります。



【持続的成長シナリオ】



### 【長期経営ビジョン】

◆ I J T Tグループは、「製造現場力、生産技術力、商品開発力」の3つのものづくり力とそれを支える「スタッフ力」に磨きをかけ続け、I J T Tグループならではの付加価値をお客様にご提供致します。

■ 連結売上高 2 千億円、営業利益率 7%



ステークホルダー  
のご期待にお応えする

### 3. 当社グループを取り巻く経営環境(当社調査による)

#### 【国内市場】

- ・当面は堅調に推移するものと捉えておりますが、次期東京オリンピック以降は段階的に商用車の需要は減少傾向になるものと想定しております。

#### 【海外市場】

- ・アセアン経済の停滞と中国経済の成長鈍化の影響で、当面は現状横這いが継続するものと想定しておりますが、中長期的には依然、成長市場の位置づけに変わりはないと捉えております。

#### 【商用車メーカーの動向】

- ・市場環境を踏まえて、新たな新興国市場を開拓し業績拡大を目指しているものと捉えております。
  - － 新興国専用車の開発で新興国企業との価格競争に対抗
  - － 低コスト生産国の輸出拠点化
- ・先進的な環境規制対応や自動運転等、最先端安全技術での競争がますます激化するものと想定しております。

#### 【建設機械の需要動向】

- ・世界需要は新興国を中心に調整期に入り、需要回復には数年かかるものと捉えております。

#### 4. 中期的な経営課題と施策の推進

- ・当社グループのQCD（Quality、Cost、Delivery）競争力強化及び経営統合効果の最大化に向けて、3つの経営課題に対して5つの経営施策を推進し、より盤石な事業基盤を築いていきます。

3つの経営課題	5つの経営施策
1. ものづくりコスト構造改革	1) 生産ラインの刷新と仕組み改善による製造コストの大幅削減
2. グループシナジー追及による経営の効率化	2) グループ機能分担見直し/強化による経営体制の再構築
	3) グループ生産体制を再編成し最適化を図る
3. 事業拡大に向けた拡販戦略	4) 技能/技術力に磨きをかけ拡販コア商品を重点市場に拡販
	5) 将来の事業の柱となる新たな商品開発と事業の開拓

#### 5. 定量目標

(単位：億円)	2016年3月期	2021年3月期
売上高	1,341	1,600
営業利益	32	65
営業利益率	2.4%	4.0%

#### 6. 配当に関する考え方

- ・当社は、株主の皆様への安定した配当を継続的に行うことを重要な経営課題の一つとして考えており、株主にとっての投資価値、当社の財務体質に及ぼす影響、利益の状況、配当性向、今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを総合的に判断して適正な利益配分を行うことを基本としております。

以上